



# 天文台だより

銀河の森天文台  
2025 冬号  
Vol.106

## 驚き！おもしろ科学実験2024開催！

11月30日(土)「驚き！おもしろ科学実験2024」を開催しました。今年も名古屋大学や足寄動物化石博物館をはじめ、様々な実験ブースが並び、たくさんのお客様に楽しんで頂くことができました。銀河の森天文台からは、変形型月面ロボット「SORA-Q」の1/1スケールモデルの操作体験ブースで、簡単な迷路を走破する体験をして頂きました。みなさん初めの頃は「SORA-Q」の操作に苦戦していましたが、操作しているうちにだんだんとスムーズに動かすことが出来るようになっていました。



## 冬のイベント情報 !!

### ☆火星観望会

1月12日に最接近、1月16日に衝を迎え、見ごろとなっている火星を観望します。最接近前後は火星の模様を見るチャンスです、ぜひご観望ください。

開催日：1月8日(水)～19日(日)

説明会：午後7時30分から(土曜・日曜のみ)

### ☆浦島久氏写真展

浦島氏が撮影した、豊頃町のハルニレの大木や厳冬期に十勝川河口に見られるジュエリーアイスの写真を展示いたします。

開催日：1月15日(水)～2月9日(日)

トークイベント：1月18日(土)午後3時から

### ☆火星・木星と冬の天体観望会

火星・木星や、この時期見ごろの天体を観望します。赤く輝く火星や木星の縞模様をじっくりご観望ください。

開催日：1月29日(水)～2月9日(日)

説明会：午後7時30分から(土曜・日曜のみ)

### ☆2024年度銀河の森天文台写真展

銀河の森天文台で撮影した最近1年の写真を展示します。合わせて、皆様が最近1年で撮影された天体写真を公募し展示します。詳しい応募方法は天文台HPをご覧ください。

募集期間：2025年1月4日(土)～2月28日(金)

展示期間：2025年3月7日(金)～23日(日)

### 「館長コラム」～冬～

冬といえば、オリオン座が見えています。今シーズンは、近くに木星や火星が光っていますのでなおさら賑やかになっています。なかでも一等星ベテルギウスは、いつ超新星爆発をおこしてもおかしくない星と言われて



館長  
津田浩之(双子座)

います。もしも、超新星爆発となれば今の季節だと夜に見えているので満月のように明るく輝くかもしれません。星の光で影ができるかもしれません。恒星の終わりを目撃できる機会は滅多にありません。1987年には、大マゼラン雲という銀河で超新星爆発が起こり肉眼で観測できました。そもそも南天の大マゼラン雲は北海道からは見えません。人類史上400年振りの出来事だったようです。同じ天の川銀河の超新星爆発は1604年のケプラーの超新星まで遡ります。一生に一度あるかないかの天体現象ですが、宇宙には銀河がたくさんあるので目に見えないレベルの超新星爆発はわりと頻繁に起こっています。

さて、ベテルギウスに話を戻しますが、爆発がもうすぐいいながら10万年後とかという話なので、これはもういつになるかわかりません。いつか爆発してしまう星なのですが、ベテルギウスの無くなったオリオン座はへんてこりんな形になるでしょうね。冬の大三角形も結べなくなります。

1月15日からは、帯広の写真愛好家で「ジュエリーアイス」の名付け親である浦島久氏の写真展を開催します。ハルニレのある風景とジュエリーアイスの光のファンタジーをお楽しみいただければと思います。期間中、浦島氏のトークショーもごございますのでぜひご来館ください。

## 暦表 (陸別町)

	日の出	日の入	月齢	月の出	月の入
1月 1日	6:54	16:03	1.2	8:14	17:04
1月15日	6:51	16:18	15.2	17:25	8:04
2月 1日	6:37	16:40	2.6	8:10	19:53
2月15日	6:20	16:59	16.6	19:38	7:33
3月 1日	5:58	17:17	1.1	6:34	18:48
3月15日	5:34	17:34	15.1	18:29	5:56

# 天文行事&暦

## 1月

- 12/28-1/3 天文台休館日
- 4 しぶんぎ座流星群が極大 (AM0時 最大30個/時)
- 5 小寒(24節気:太陽黄経285°)
- 8-19 火星観望会
- 10 金星が東方最大離角 (光度:-4.5等, 離角:47°10')
- 12 火星の最接近(9,608万km)
- 14 ○満月
- 15-2/9 浦島久氏写真展
- 16 火星が衝 (光度:-1.5等, 視直径:14".6)
- 20 大寒(24節気:太陽黄経300°)
- 29 ●新月
- 29-2/9 火星・木星と冬の天体観望会

## 2月

- 1/15-2/9 浦島久氏写真展
- 1/29-2/9 火星・木星と冬の天体観望会
- 3 立春(24節気:太陽黄経315°)
- 10 火星食(陸別:始5:15、終6:00)
- 12 ○満月
- 15 金星が最大光度(-4.9等)
- 18 雨水(24節気:太陽黄経330°)
- 28 ●新月

## 3月

- 5 啓蟄(24節気:太陽黄経345°)
- 8 水星が東方最大離角 (光度:-0.3等, 離角:18°15')
- 14 ○満月
- 7-23 2024年度銀河の森天文台写真展
- 20 春分(24節気:太陽黄経0°)
- 24 土星の環の消失
- 29 ●新月

2024年10月26~31日  
 「ハロウィンナイト観望会」  
 たくさんのご参加を  
 ありがとうございました!



## 2025年太陽系天体みどころカレンダー

★黒線期間が見頃の時期、点線期間は短時間ですが見える時期になります。○:満月 ●:新月

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
月	○ 14 ● 29	○ 12 ● 28	○ 14 ● 29	○ 13 ● 28	○ 13 ● 27	○ 11 ● 25	○ 11 ● 25	○ 9 ● 23	○ 8 ● 22	○ 7 ● 21	○ 5 ● 20	○ 5 ● 20
太陽	晴れていれば館内で、太陽望遠鏡で撮影した現在の太陽の映像を見ることができます。											
水星												
金星												
火星												
木星												
土星												
天王星												
海王星												

2025年の天文台開館中に太陽系の天体たちが見頃となる時期をカレンダーにまとめました。

また、9月8日未明には皆既月食があり、10月6日は中秋の名月となります。

2025年もたくさん空を眺めて楽しみましょう!



## 天文台からのお知らせ

☆ 12月28日(土)~1月3日(金)の期間は、天文台休館日となります。

## 星座小噺「88星座の成り立ち」

ついに冬がやってきました。冬は空気が澄んでおり、星がきれいに見えますが、長時間外にいると体が冷えてしまうので、体に気を付けていただきたい季節となっております。私は陸別町にきて初めての冬となるので、寒さに少し不安もありつつ迎えています。

さて、今回は「88星座の成り立ち」についてお話していきます。

現在使われている88の星座が決定したのは、1922年と意外と最近のことです。それまでは様々な星座が乱立しており星座の大きさや形、名前が人によって違っていました。

そんな星座を1922年にローマで開かれた国際天文学連合(IAU)第1回総会で88個の星座に整理し、それぞれの名前を決めました。

1930年には「星座の科学的境界設定」が出版され、天球を赤経・赤緯の線に沿った境界線で区切った星座の“領域”が確定しました。

現在の88星座は境界線が定められていますが、星のつなぎ方は定められていません。星空を眺めて想像力を働かせて、自分だけの星座を作る楽しみ方はいかがでしょうか。(寺)

## プラネタリウム情報!!

プラネタリウムは、開館日の土・日・祝日のみの上映になります。

定員:10名(入館者先着順、受付にて整理券を配布)

上映時間:午後3時、4時、5時(開館日の土・日・祝日のみ)

上映番組:「今夜の星空」(各回約10分)

発行・編集:りくべつ宇宙地球科学館(銀河の森天文台)

〒089-4301 北海道足寄郡陸別町宇遠別 TEL:0156-27-8100

URL: <https://www.rikubetsu.jp/tenmon/index.html>

E-mail: [ginga@rikubetsu.jp](mailto:ginga@rikubetsu.jp) X(旧Twitter): @ginganomori\_obs

